



2024年6月24日

各位

会社名 株式会社いなげや
 代表者名 代表取締役社長 本杉 吉員
 コード番号 8182 東証プライム
 問合せ先 専務取締役 羽村 一重
 (TEL 042-537-5111)

(訂正)「通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」の一部訂正について

当社は、2024年5月10日に開示いたしました「通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」に一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正理由

本日(2024年6月24日)に公表いたしました「(訂正・数値データ訂正)「2024年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について」において記載しております。

2. 訂正内容

訂正箇所には下線を付して表示しております。

【訂正前】

1. 通期連結業績予想と実績値との差異(2023年4月1日から2024年3月31日)

(百万円未満切捨て)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	259,000	2,400	2,400	700	15円10銭
実績値(B)	261,486	2,931	2,892	<u>1,728</u>	<u>37円30銭</u>
増減額(B)-(A)	2,486	531	492	<u>1,028</u>	
増減率(%)	1.0%	22.1%	20.5%	<u>147.0%</u>	
(ご参考)前期連結実績 (2023年3月期)	248,546	1,899	2,184	△2,105	△45円43銭

2. 差異の理由

当期においては、世界的な政情不安、急激な円安、食料品や生活関連商品の値上げなどの先行き不透明な状況下、お客さまの生活防衛意識は依然として高い状態が継続しております。

このような状況のもと、当社グループでは自社カード顧客へのポイント施策の強化、AEONPay導入など決済手段の多様化によるお客様利便性の向上、コモディティ主力商品の曜日セールでのお買い得な商品提供、生鮮食品・惣菜の当社ならではの「おいしさ」にこだわった商品の販売強化、プライベートブランド商品「トップバリュ」「食卓応援」による品揃えの充実などに取り組んでまいりました。

販管費についても販促の電子化、物流便の見直し、フルセルフ・セミセルフレジの導入加速

によるお客様レジ待ちストレス解消とレジ人時の効率化など、サービスレベルを維持しつつ値上がりする各種費用の増大抑制にも努め、営業利益、経常利益においては前回予想を上回る結果となりました。

また、営業利益が改善したことで減損損失が前回予想時点より減少したこと、投資有価証券の売却益を計上したことにより親会社株主に帰属する当期純利益も前回予想を上回る結果となりました。

【訂正後】

1. 通期連結業績予想と実績値との差異（2023年4月1日から2024年3月31日）

（百万円未満切捨て）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	259,000	2,400	2,400	700	15円10銭
実績値(B)	261,486	2,931	2,892	497	10円73銭
増減額(B)-(A)	2,486	531	492	<u>△202</u>	
増減率(%)	1.0%	22.1%	20.5%	<u>△28.9%</u>	
(ご参考) 前期連結実績 (2023年3月期)	248,546	1,899	2,184	△2,105	△45円43銭

2. 差異の理由

当期においては、世界的な政情不安、急激な円安、食料品や生活関連商品の値上げなどの先行き不透明な状況下、お客さまの生活防衛意識は依然として高い状態が継続しております。

このような状況のもと、当社グループでは自社カード顧客へのポイント施策の強化、AEONPay 導入など決済手段の多様化によるお客様利便性の向上、コモディティ主力商品の曜日セールでのお買い得な商品提供、生鮮食品・惣菜の当社ならではの「おいしさ」にこだわった商品の販売強化、プライベートブランド商品「トップバリュ」「食卓応援」による品揃えの充実などに取り組んでまいりました。

販管費についても販促の電子化、物流便の見直し、フルセルフ・セミセルフレジの導入加速によるお客様レジ待ちストレス解消とレジ人時の効率化など、サービスレベルを維持しつつ値上がりする各種費用の増大抑制にも努め、営業利益、経常利益においては前回予想を上回る結果となりました。

また、営業利益が改善したことで減損損失が前回予想時点より減少したこと、投資有価証券の売却益を計上しましたが、2024年6月24日に適時開示しました「(訂正・数値データ訂正)「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について」に記載いたしましたとおり、連結財務諸表において繰延税金負債12億31百万円、法人税等調整額12億31百万円を追加計上することとなったことにより親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を下回る結果となりました。

以上